

豊中高校第六十九回卒業式式辞

本日ここに、大阪府立豊中高等学校、第六十九回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜りましたこと、壇上からではございますが、厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様には、めでたくお子様が無事ご卒業をお迎えになりましたこと、心よりお喜びも申し上げます。この場をお借りしまして、本校教育へのご理解、ご協力、ご支援に対し、深く感謝を申し上げます。

さて、高校の全課程を修了し、ただいま、卒業証書を授与された360名の69期の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

豊中高校での3年間、うれしかった事やつらかったことなど、さまざまなことを乗り越え、今日という日を迎えた皆さんの真摯な努力に心から敬意を表します。

しかし、卒業は皆さんの努力だけでなしたことはありません。これまで皆さんを育ててこられた保護者やご家族の方々、時には優しく、時には厳しく、教え導いてくださった先生方、温かく見守っていただいた地域の方々に支えられた賜物であり、感謝の気持を決して忘れないようにしてください。

私は1年間、皆さんを見てきましたが、時代は変わっても、「さすが豊高生」と思ったことが度々あります。中でも、体育大会の応援合戦で見せてくれたチームワークの良さ、文化祭の演劇では、短い準備期間を最大限活用した、高度な舞台構成や効果的な演出振りには、豊高生のプレゼンテーション力の底力を見る思いがしました。

さて、今日は、改めて「学び」について考えたいと思います。

皆さんが使っているインターネットは、皆さんが生まれたころ、普及率はわずか十数パーセント程度でした。現在では80%を超えています。誰でも自由にネット上で知識を得ることができ、自ら発信することが可能な時代に皆さんは生きています。

そのような情報化による変化に加え、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新による雇用環境の変化により、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えているといわれています。

既存の知識をたくさん持っていることで、課題を乗り越えることのできた時代は終焉を迎えているといっても過言ではありません。

未来を担う皆さんには、課題を見出し、その課題を解決するために、必要な知識を情報源の中から選択し、自分なりの考えを構築して、周りの人々と議論しながら、周囲の人々を巻き込み、行動に移していくような、そんな「学び」が求められています。

このような「学び」を継続するにあたって、大切にしてほしいことを3点示します。

まず、一点目は、豊高生には「noblesse・obligé」を課せられていることを肝に銘じてほしいのです。「noblesse・obligé」 — この言葉は、直訳すれば「貴族の義務」という意味ですが、私は、「みなさんのような将来のグローバル・リーダーに、義務として求められる幅広い努力」と翻訳したいと思っています。繰り返します。「義務として求められる幅広い努力」です。みなさんの多くは、これから専門領域を深く学ぶことが多くなるわけですが、自分の専門領域だけではなく、幅広く教養を広めることにより、真の意味で能力を高めていくことが求められています。これが豊高卒業生に課された「noblesse・obligé」であります。

二点目は、豊高生のコミュニケーション力の高さに自信を持ってほしいという点です。コミュニケーションは二つに分けられ、一つは言語を用いる「バーバル・コミュニケーション」で、もう一つは、身振り手振りや顔の表情など言語を用いない「ノン・バーバル・コミュニケーション」です。

前者の「バーバル・コミュニケーション」を豊かにするには、豊富な語彙と表現技法が求められます。国際的共通語として中心的な役割を果たしている英語についても同様です。豊高で培ったバーバル・コミュニケーションの力量にさらに磨きをかけ、グローバルな社会での活躍を期待します。

後者の「ノン・バーバル・コミュニケーション」についてはどうでしょうか。高校生活で友人と快適に過ごしたり、行事を通じて達成感を味わうなど、人間関係を円滑にするためには、この「ノン・バーバル・コミュニケーション」が重要な役割を果たします。皆さんは豊高での行事やスポーツ活動などを通じてこの「ノン・バーバル・コミュニケーション」を十分に身につけたはずです。

三点目は、遊び心であります。学びに遊びはそぐわないと思う人がいるかもしれませんが、オランダの歴史学者であるヨハン・ホイジンガは、人間の存在をラテン語で、「ホモ・ルーデンス」と主張しました。「ホモ・ルーデンス」とは「遊ぶ人」のこと。遊びの要素が文化を創造することの根源であると主張しています。

学びを継続するにあたって、この遊び心とユーモア精神をもち続けて欲しいのです。

キーワードは「noblesse・obligé」「バーバル・コミュニケーションに加えノン・バーバル・コミュニケーションが大切であること」そして「ホモ・ルーデンス」の3つです。

高校の卒業で、「学び」が終わるのではありません。むしろ、これからが本当の「学び」のスタートです。

皆さんが豊高に在籍しているこの三年間、連続して日本の研究者がノーベル賞を受賞されました。いずれも私たちの命や生活の利便性に直接貢献する内容の研究に対する受賞でした。学問の発展の目的は、この受賞に象徴されるように、人類への貢献にあるのです。皆さんが日々こつこつと「学び」に励むことは、学問のさらなる発展につながり、ひいては、人類にとってより良い未来を創ることにつながるのです。

結びに、32期の卒業生でもある私からお願いをしたいことがあります。それは、豊高で出会った友人や先生方との絆をこれからも末永く大切にしたいということです。卒業後も、どうぞ母校を訪ねてきてください。私たちはいつでも皆さんを歓迎します。

5年後に豊中高校は100周年を迎えます。その節目の年に向けて、皆さんの母校豊中高校がさらに発展するよう努力することを誓い、私の式辞といたします。

平成29年 3月1日
大阪府立豊中高等学校
校長 平野 裕一